

2024年度（令和6年） 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人 西南女学院

西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・キリスト教保育を基盤とした愛と命の大切さを知る。
- ・友だちと一緒に遊んだり活動したりすることを喜ぶ。
- ・知的な好奇心と感動する心を持ち、主体的に考え行動する。

2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

多くの教材に触れて自ら遊びを展開し、その遊びの楽しさを感じ、様々な行事を通して友だちとの絆を深められるよう、幼児一人ひとりとしていねいに向き合い指導に努める。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価内容	評価	評価の理由や取り組み内容
保育内容と計画	A	キリスト教保育を基盤としている。毎日の礼拝や祈りをすることで、色々なことに感謝する、思いやることなどが身に付いて、友だちに優しく接するようになった。保育計画は、縦割り保育と横割り保育を担当と計画しており、実施にあたり教師間の連携がよく、支援児も含めた色々な場面を想定し、協力しながら保育にあたっていた。
環境の構成	B	幼児が安心して遊びこめる環境構成を念頭に置きながら保育にあたってきた。幼児が興味関心を育むよう環境を整えたり、幼児の動線を配慮したりして遊具やコーナーの設定を行ってきた。しかし、行事準備や支援児たちの関りなどで日々の保育に追われ満足な環境準備ができないこともあった。
研修・資質向上	B	学外研修ではそれぞれの学びがあり、保育実践をすることで自分なりの課題を見つけることができて良かった。園内研修では、それぞれの保育の振り返りを行い、保育での困り感やどう子どもと向き合うかなど、他の教師から助言やアドバイスがあり、その後の保育に活かすことができた。しかし、積極的な学外研修の参加が行事など日々の保育に忙しく難しかった。もっと自ら学ぼうとする保育資質向上のための姿勢が必要だった。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価	理由
A	幼児一人ひとりとしていねいに向き合うことで、子ども理解につながり色々な課題が見つかり、その子どもにあった対応や保育を行うことができた。一人では無理なことを複数の教師と協力しながら補ってきた。一人ひとりがのびのびと自分らしさを出しながら、色々な遊びを友だちや教師と楽しみ、行事の経験から異年齢児との関りも深まってきた。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
環境構成	幼児の豊かな感性を育む環境の構成を考える。マンネリ化した環境ではなく、その時々の子どもに沿った内容で構成する。行事で忙しくなることを予測して、事前に計画を立て、準備にあたる。支援児との関りは予期せぬことが起こる場合もあるが、加配教師と共に連携をとってその子どもにとって無理のない環境を設ける。
安全管理	緊急時における自分の役割を理解し、遊具の安全に気を配り定期的に点検を行う。毎朝、園庭の環境を整えながら危険物はないか、遊具の点検は行ってはいるが、遊んでいる中でも安全に遊んでいるかを常に念頭におき、アンテナをはっておく。小さな遊具の破損などにも気をつけながら片付けをする。
配慮が必要な幼児への支援	支援が必要な幼児に沿った環境整備や適切な関りを行う。教師間で支援児の実態を把握し、加配教師に頼るのではなく、全教師で確認、話し合いを行う。保護者には本児の園での生活内容をこまめに伝え、集団での姿を把握してもらい協力を得られるよう努める。発達支援事業所やその他専門機関と連携をとったり、巡回訪問をしていただいたりしながら支援児たちの成長に繋がるよう関わっていく。

6. 学校関係者評価委員会の評価

シオン山幼稚園には、広い園庭に加えて裏庭には気持ちのいい芝生が広がり、子どもたちがのびのびと遊べる環境があります。また、縦割り保育によって、思いやりと感謝の気持ちが自然と身に付いているのも見てとれます。

教職員の方々は優しく見守ってくださり、時には厳しくご指導いただき、その日の様子を送迎時に教えてくださいます。子どもたちの話の中からも、楽しく過ごせているのが伝わってきます。しかし、園児数の減少とワーキングママの増加により、園行事に携わる保護者会の活動が逼迫することが懸念される状態なのも事実です。上記を踏まえて、子どもたちを囲む環境や対応には実評がありますが、時代と共に、もう少し変化のできる園であってほしいと思います。

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

委員会実施日

令和7年3月27日